

国際学級Group Communication Learning

「友達と話し合って、これからどうするか判断しよう」

実施 平成25年10月28日～10月29日

場所 第5学年ゆり組教室

対象 国際学級児童 第4学年 2名

第5学年 1名

第6学年 2名

授業者 岩浅 健介

1. 単元の目標

○関心・意欲・態度

友達と話し合う楽しさを感じ、積極的に話し合おうとする

○話すこと

自分の意見をもって、正しい話型や言葉を選びながら、相手へ分かりやすく伝える

友達の意見に質問をしたり、友達へ意見を求めたりして、話し合えることができる

2. 単元について

Group Communication Learning (グループコミュニケーション学習) は、少人数グループで話し合う活動を通して、学習に必要なことばが身につく学習システムである。日常会話を日本語でできるようになっても、大人数の一斉授業になると、十分に発言できなかつたり、話し合いに参加できなかつたりする児童の実態がある。これまでの個別学習日本語の授業でも、話すこと・聞くことに特化し、自分の考えを相手に伝える学習シートはあった。しかし、実際にはシート学習では扱いきれない、様々な話形やことばがある。つまり、実践的な力はシート学習だけでは、なかなか身につかない。よって、実際に少人数のグループで児童同士が話し合う経験を積み、どのような場面でも、友達の意見を聞き、自分の考えを伝えるために、必要な様々な話形やことばを児童に習得させたい。

具体的な活動場面での話し合いを想定している学習である。よって、丁寧な言葉遣いで話すことや、基本的な話型を身につけることも大切にしている。今回は「グループから挙がった意見から、条件に合わせて判断し、絞りこむ」場面を取り上げる。児童にとって身近な話題・題材として、「ゆり組の畑に植える物を決める」話し合いを行う。今まで培った話形も意識して、学級活動の話し合い活動で生かせるように、ルールも併せて身につけさせるよう計画した。

3. 児童の実態

今回は、自分の意見をもって話し合いに臨めるが、相手に分かりやすく伝えるための話し方が身につけていない児童をグループにした。実際には、発達段階や日本語の習得段階を総合的に判断して、グループ作りを行っている。また、話し合いに適した人数バランスになるように、どのグループも、5名前後になるように配慮している。生活に必要なことばを学ぶ段階の児童は、①立場や理由を明らかにして自分の意見が言う。②相手の話を聞き、納得した上で、話し合いを進められることの2点を目標とし、学習に必要なことばを学ぶ段階の児童は、①立場や理由を明らかにして自分の意見が言える。②互いの考えの共通点や、相違点を考えて話し合える。③話を自分たちで進行できることの3点を目標とした。

<グループ児童について>

A児 6年生 アメリカ 英語

普段から物静かで、自分から積極的に話そうとはしない。しかし、思考・想像力は豊かで、日常会話や学習に必要なことばの習得もかなり進んでいる。英語でも日本語でも冗談を言える。俳句や短歌、だじゃれなどのことばづかひも確かに行うことができる。英検準1級保持。

B児 6年生 アメリカ 英語

社交的な性格で、いつも友達の輪の中にいる。生活に必要なことばの習得は進んでいる。日本語での冗談もかなり通じ、だじゃれや言葉遊びをして楽しむことができる。反面、学習に必要なことばの語彙が足りない。自分の意見を分かりやすく伝えるために、短い文で話すことを学習しているところである。

C児 5年生 アメリカ 英語

責任感が強く繊細な性格。分からないことは、自分から進んで質問したり、考えたりすることができる。放送委員会に所属し、生活に必要なことばの習得はかなり進んでいる。自分の意見を分かりやすく伝えるためのことばや、話し合いの進め方を現在学習しているところである。

D児 4年生 アメリカ 英語

社交的な性格で、放送委員会に所属し、アナウンスも自然な日本語で行うことができる。生活に必要なことば、学習に必要なことばの習得もかなり進んでいる。自分の意見を分かりやすく相手に伝える方法を学習している段階にある。

E児 4年生 アメリカ 英語

思考・想像力が豊かで、一つ例を挙げると、関連してたくさんの意見を考えることができる。また、生活に必要なことばの習得も進んでいて、友達同士、教師からの指示もよく聞き取って確かな行動へつなげることができる。学習に必要なことばと話し合いの進め方を学習している。

<児童に使わせたい表現>

①【時間・体験・経験】

「私が〇〇だったときに、・・・しました。」「・・・したことがあります。」

②【目的・理由】

「私は、〇〇のために、・・・たいです。」「私は、〇〇したいので、・・・を育てます。」

③【同意・賛成・反対・質問】

「私の意見について、みなさんどう思いますか。」

「私は、〇〇の意見に、賛成（反対）です。それは、・・・だからです。」

「なぜそう考えたのですか。」「詳しく教えてください。」

④【比較・仲間わけ・検討】

「〇〇と比べて、・・・がいいです。それは、・・・だからです。」

「〇〇と●●は、同じだと思います。それは、・・・だからです。」

「●●を育てるのは、やめたほうがいいです。それは、・・・だからです。」

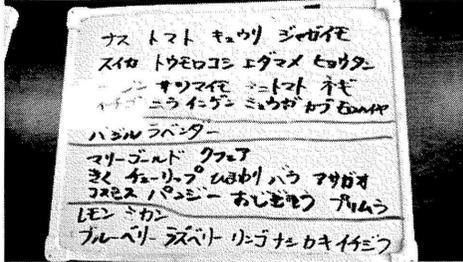
「〇〇を育てるのがいいです。それは、・・・だからです。」

⑤【予想】

「きっと、みんなは・・・だから、黒いチューリップでいいと思います。」

「たぶんもらう人は、・・・だから、〇〇なチューリップもいいと思います。」

4. 学習の実際（全2時間）

学習の流れと児童の主な学習活動	◇手だて ◆評価と見取り
<p>話題『ゆり組の畑で何を育てるか決めよう』</p> <p>○過去に畑で育てたことがある物を振り返った。</p> <p>B: 1学期のときに、漬け物にして食べられる野菜を育てた。</p> <p>D: 去年は、6年生のためにお花を育てた。</p> <p>B: 今、学校でサツマイモを育てている。</p> <p>A: 前の家の庭で、様々な植物を育てていた。</p> <p>C: 家でバジルを育てていたけど、枯れちゃった。</p> <p>C: 豆腐の上のにのせるやつを育てていました(茗荷)。</p> <p>E: スイカは結局育ったか分からなかったね。</p> <p>A: 朝と夜で花が閉じたり開いたりする…朝顔!</p> <p>E: モロヘイヤを育ててました。</p> <p>○これから何を育てたいか、学習シートへ書く。その理由も併せて書いた。</p> <p>B: 僕はチューリップがいいです。チューリップには、たくさん色があって、綺麗に飾ることができると思うからです。それに、植える時期が、今の季節にぴったり合うからです。</p> <p>E: 私は、スイセンがいいです。綺麗な色の花が咲くし、白い花だけでなく、黄色い花があるところがいいです。</p> <p>D: 私は、フリージアがよいと思います。今本を読んだら、育てるのが簡単そうだし、色も綺麗な黄色だからです。</p> <p>C: 私は、チューリップがいいと思います。前に育てたこともあったし、いろんな色で、畑も綺麗になると思うからです。</p> <p>A: 私は、どんな種類か分からないけれど、黒い花があれば、育ててみたいです。色が珍しいし、育てるのもきっと楽しいと思うからです。</p>	<p>◇手だて ◆評価と見取り</p> <p>◇ゆり組のお別れ会を3月にする。そのときに、自分たちが畑で育てた物を使って、パーティーを行う。だから、話し合うのだ、という必要感をもたせた。</p> <p>◇オープンエンドで、できるだけたくさん名前が挙がるように、先を促した。</p> <p>◇挙げた名前を全てミニボードに書き留めて、後で確認できるようにした。</p>  <p>◆「6ゆりを送る会」という卒業生の送別会という意識が強く、6年生のかかわり方が難しかった様子であった。</p> <p>◆自分の生活体験や学習経験を振り返って、話すことはできていたが、話形に気をつけて話すことは少なかった。</p> <p>◇資料として、園芸店の写真や、園芸関係の書籍を提示して、先の活動で挙げた物に限らず、広く尋ねるようにした。</p> <p>◇ボードを示して、先の活動で自分たちが挙げた名前を確認できるようにしておいた。</p> <p>◆調べ学習のような時間が続いてしまったため、児童の話し合う時間・意見を書く時間が、短くなる要因となった。</p> <p>◆進んで、どの植物ならば栽培できそうか、調べる姿があった。</p> <p>◇ゆり組のお別れ会を行う目的から大きく外れないように、強調した。</p> <p>◇目的の場面を限定する視点をもたせることで、リストの絞り込むように話し合いを進めた。</p> <p>◆自分の思いが優先してしまい、育てる目的とのつながりが、不明瞭になってしまった。</p> <p>◆野菜作りを敬遠したのは、A児のつぶやき「野菜を育てるのはめんどくさいと思う。花なら水をやって</p>

○自分が書いた、育てたいものをみんなに伝えた。

B：僕は、チューリップがいいです。とにかく、時期が Perfect です。たくさん色があるので、いろいろな色で、綺麗になります。

A：僕は、黒い花がいいです。見たことがないので、Special な感じがします。

C：僕はフリージアがいいです。黄色い花が…黄色いので……

○質問し合ったり、説明し合ったりして、互いの考えを理解する。

B：ねえ、もし黒いチューリップがあつたらどうする？

A：あるの？あつたらチューリップでもいいよ。

D：僕は、フリージアがいいと言ったけれど、チューリップも同じやり方で育てられるし、チューリップがいいと思いました。

C：黒いチューリップがあつたらいいね。

T：今、意見を聞かなくてはいけないのは誰かな？チューリップが4人だから…。

A：黒いチューリップだったらどうですか？

E：私は、本当に黒いチューリップがあるなら、スイセンではなくてもいいです。黒い花は珍しいから、育ててみたいです。

○学習を振り返って、友達の見方で心に残ったこと、それに対して自分がどう思うか書いた。

A 児：チューリップはいろいろな種類があります。黒い花がほしくて、具体的に分からなかったの、黒いチューリップがあつたらチューリップがいいと思います。【自己評価：◎◎◎】

B 児：花によっていろいろな特徴がある。チューリップは、いろいろな色を持っているので、例えば黒い花を育てられる。パーフェクトな時期。

ればいいから…」に起因すると思われた。

◇「おすすめポイント」として、たくさん肯定的な理由を挙げられるように、「他にないですか？」と尋ねるようにした。

◇後で話し合いの進行を振り返られるように、ミニボードに植物の名前とその理由（おすすめポイント）を全て書き残すようにした。

◇短く文を切ることが苦手な児童には、正しく言い直させるようにした。

◆「なぜかというと……だからです。」の表現話形は、全ての児童が使うことができていた。反面、正しく言い直させることで、話し合いの流れを止めてしまった。

◇できるだけ教師が見守れるように、児童相互の指名で話し合いを進めさせるようにした。

◇まだ意見を聞いていない児童、キーマンとなっている児童の意見を聞くように促した。

◇質問や説明の補助資料として、先のミニボードの内容を示し、いつでも確認できるようにしておいた。

◇できるだけ自由に意見を言い合えるように、改まった話し方への指導は特に行わなかった。

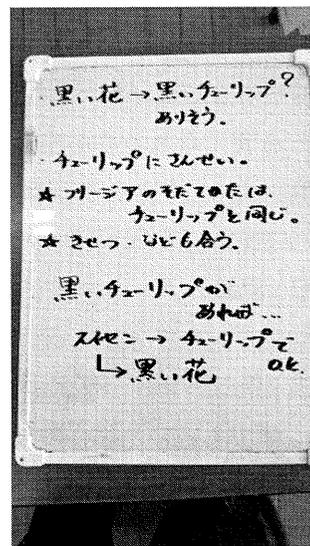
◆改まった話し方で発言することは難しかったが、話し合いはスムーズに進めることができた。

◆在籍期間の長い児童は、話形を意識して発言する様子があった。

◇友達が、実際にどのように思っていたのか、また、友達の意見を聞いて、どのように自分の考えが変容したのかを書くように伝えた。

◇ミニボードを示して、今まで話し合った内容を全て確認しながら振り返ることができるようにした。

◇自己評価は、「伝えられたか」「聞けたか」「つなげ



【自己評価：◎◎◎】

C 児：ゆり畑で黒い花を育てたら、面白いと思います。

B くんが、「チューリップでも黒い花あるんじゃない？」と言ったのがよかった。【自己評価：◎◎◎】

D 児：僕は、本を見て、フリージアの方がいいと思いましたが、チューリップも同じ育て方なので、チューリップもいいと思いました。【自己評価：◎◎◎】

E 児：私も黒い花は珍しいと思うので、あったら是非育ててみたいです。スイセンもいいけど、黒い花に意見を変えます。【自己評価：◎◎◎】

【本 時】

話題『ゆり組の畑で何を育てるか決めよう』

○前回の内容を振り返った。

○「黒いチューリップでよいか」話し合った。

A：黒い花は、やっぱりスペシャルな感じがするし、珍しいので、ゆり組の畑で育てたいです。

E：本当に黒い花があると思わなかったの、黒い花を育てられるのが楽しみです。

B：僕は、チューリップを育てたいので、色は黒い色でもかまわないです。

C：私は、チューリップがいいです。だから、黒い色のチューリップも面白いと思います。

D：僕は、フリージアがよかったけれど、チューリップでもいいと思うので、賛成です。

◇ゆり組みんなを納得させるために、おすすめポイントを増やす話し合いを行った。

- ・黒い色は珍しいから育てたい。
- ・黒だけだと、楽しい雰囲気にならない気もするから、他の色も入れた方がよいと思う。
- ・チューリップはたくさん色があるから、黒だけでなく、いろんな色があれば、綺麗になる。
- ・畑をたくさん色にするのは、とてもいいと思う。
- ・黒い花だけ教室に飾ると、なんだか不気味です。
- ・珍しい花だと伝わらなかつたら困るので、黒以外の

られたか」を、◎・○・△で評価できるようにした。

◆在籍期間の長い児童は、自分の考えだけでなく、友達がどのような考えを持っていたのか、きちんと書き残すことができていた。

◆概ね自分の意見を友達にきちんと伝え、友達の話をきちんと聞くことができていたようだった。

◆話をつなげる方法として、意見を言った児童が次を指名する方法をとったので、指名するのを忘れてしまったり、言いたいことが言い尽くせなかったりした児童に、○評価が現れた。

◆D 児において顕著であったのは、グループでの思考の速度と話し合いの速度について行けない場面があったことだった。座席からミニボード確認しづらい位置にあったことも要因の一つであったと考えるので、全員から同じように見える位置に、ボードを置く配慮が必要であった。

◇事前に、「黒いチューリップ」は存在し、球根も販売していることを伝えた。

◇前回の話し合った内容を書き残したミニボードを示して、思い出させる補助資料とした。

◇植物の最終決定が本来のゴールである。一步踏み込んで、「なぜその植物が良いのか」を話し合わせることで、このグループには適した学習活動であると考え、「他のゆり組の仲間 13 名を説得する理由づくり」を行うように考えた。

◇自分たちの前回の話し合いの結果を再確認しながら、本時に話し合うテーマを選ぶようにした。

◆友達の見解に、「なるほど。」や「それもいいね。」などと、反応を示しながら聞くことができていた。

◆次に誰を指名するか、は自分たちで決めながら話していたが、話題の修正や進行役は主として担任が行った。

◇「ゆり組みんなを説得するため」に、よりたくさんの方の言い方や方法でおすすめポイントを挙げさせるようにした。

◇いつでも振り返ることができるように、話し合いの経過や挙げられた理由をミニボードに書きまとめた。

◇前回は、自分の思いのみを優先させてしまっていた

色も入れた方がいいです。

- ・黒い花だけにするのはやめよう。
- ・プレゼントして、持って帰れるように、花束にした方がいいと思います。
- ・教室だけでなく、廊下も綺麗に花で飾った方がいいと思う。
- ・きっと、みんなはチューリップを育てることに賛成してくれると思う。だから、珍しい色の花もあるよと教えてあげた方がいいと思う。
- ・僕は、黒い花でも珍しいからもらったらしいです。だから、みんなもきつとらしいと思う人がいると思う。
- ・どんなお花でも、育てるのは楽しいから、みんな納得してくれると思う。
- ・同じ時期の花だけれど、ユリは花粉が落ちるから、チューリップの方がいいと思いました。
- ・チューリップの球根を、シャッフルして、どの色になるのかみんなが分からないのも、育てていて面白いかもかもしれないと思いました。

○学習を振り返って、考えや感想を朱で書くようにした。

B児【自己評価：○○○】

- ・前の相談よりも、今日の方が、意見がもっとあって、よかったと思いました。

C児【自己評価：◎◎◎】

- ・ユリの花は花粉が落ちるのでやめようと言う意見と、(チューリップは)花束にするとちょうどよく、ヒマワリは場所をとるのでよくないと言う意見を合わせようと思いましたが、Aくんが、「その意見はまとめられないと思う。」というのに、納得できました。

E児【自己評価：◎◎◎】

- ・Dくんが言っていた、6年生にとって懐かしい花になるかもしれないというのが、とてもよかったです。

D児【自己評価：◎◎◎】

- ・ぼくは、Aくんに賛成しました。6年生や友達が喜ぶだろうと思いました。いろいろな意見が出ました。この中で、シャッフルもいいと思いました。

ので、「ゆり組みんなはどうだろうか。」と疑問を呈して、みんなの意見としてまとめるようにした。

◇「黒」にはあまりよくないイメージもあることに触れ、「本当によいか」児童に投げかけた。

◇その上で、「どのように黒いチューリップを使うのか」という観点で話し合うように促した。

◇前時に話し合った内容からも意見が言えるように、ミニボードを確認できるようにしておいた。

◆自分たちだけの考えで終わらないように、ゆり組の他の仲間13名を意識して、話題に沿って話し合いを進めようとしていた。

◆「黒いチューリップ」だけでなく、いろいろな色のチューリップがたくさんあるとよいという趣旨の発言に、全員が賛同していた。自分の思いだけでなく、パーティーの場面を想定して発言していた。

◆「他の花と比べて」という視点が生まれたのは、児童の体験や経験に基づくものであったので、想定をしていなかった。重要な話形としてもっとクローズアップしても良かった。

◇前時の学習シートには、鉛筆書きで記入していたため、本時では、違いが分かるように朱書きで記入するように伝えた。

◇全ての意見を書きまとめたボードを示して、前回からどれだけ話し合いが進んだのか、分かるようにした。

◇自分の意見が伝わったかどうか、相手の意見を聞いてなるほどと思ったことは何か、などふりかえる視点をはっきりさせるように促した。

◇自己評価も併せて書くように伝えた。

◆自分のことばで学習を振り返ることができていた。

<p>A児【自己評価：◎◎◎】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューリップは何で育てた方がいいか、の理由がいっぱい出て、(自分もみんなも)納得したのがよかったと思います。 	
---	--

5. 考 察

今回のGCLでは、必要感をもって話し合い、一つに考えを絞ることを目的とした。子どもたちの話し合いが活性化した要因は、「実際に行く」という必要感と、「ゆり組の他の仲間を説得する」ための理由づくりという、話題の選び方にあったと考える。より実践的な話し合う力を育てたいGCLの目的にも合った活動となった。

話し合い活動を行う時に、気をつけたポイントは、「児童の求めそうな資料を予め用意しておく」ことであった。どうしても、想像だけだと、話し合いが空転してしまっ、言葉遊びから脱却できない。より実践的に話し合うためには、やはり資料に基づいた意見、その場の思いつきでなく、地に足のついた意見を児童自身にもたせてから話し合うことこそが、大切であり、重要なのだと考える。

ただし、中学年児童には、本時の実践では、まだ難しい活動であろうと思う。よって、もう少し自分の意見を持たせるための手立てや、話し合いになったときに、教師の立ち位置や出番については、一つ工夫しなければならないポイントであろうと思う。

資料を活用した話し合い活動をGCLで行うことは、本時を見ていただいた東京学芸大学准教授の菅原先生にも賛同していただいたことであるので、今後のGCLのなかで、少しずつ取り入れていきたい。また、今後の課題としては、「聞き取る力」をどのように伸ばしていくかである。例えば、「雑踏やざわざわした環境で相手の話を正しく聞き取る場面」、「他グループも同時に話し合い活動を行っているときに、目の前の人の意見を漏らさず聞き取る場面」など、実際の場面としてもあり得る場面である。よって、これまでのGCLはグループごとに部屋を分けていたが、教室を分けずに、同じ場所で複数のグループが同時にフリートークを行ったり、GCLに限らず、話し合ったりする場面を設定する必要性を感じた。